

統計データ利活用に関する 有識者会議

2016.5.27

大阪大学 鬼塚 真

データの利活用を通じた近畿圏の発展の在り方

- **議論**: 現状得られている調査データは価値が高いデータであるが、これだけだと社会発展に貢献することは容易ではない。なので、どのようなデータを手に入れればどのような社会発展が可能であるかの案をいくつか挙げる。
- **健康診断データと病院データの統合**: 保健所の健康診断データと病院のデータを統合することで、病気になる予兆を捉え、病気の事前予防を行い、保険料の削減に貢献する。
- **人流データ・気象データの活用**: 商店街の人流データを取得し、気象データ(気温, 天候, 湿度)の相関分析から、ビジネスを活性化する。
- **電力データの活用**: 電力使用状況を分析することで、電力消費量を予想し、外出する機会を増やす施策を実施する(関西電力の例)。

データの利活用を通じた近畿圏の発展の在り方(続き)

- **運転データの活用**: 2020年に向けて高速道路の自動運転が実用化されつつあるが、一般道での自動運転はまだ困難な課題である。自動車(あるいはバス)にセンサを積んで、データを分析することで、危ない運転を検出して事故防止を実現する
- **子供の見守り(神戸市の例)**: 小学校や公民館などの公共施設にセンサを設置し、小学生の行動履歴の把握を行う。

近畿圏におけるデータ・サイエンスの 発展と課題

- **観点**：データ・サイエンスの発展のため産官学で取り組むべきこと
- **オープンデータの促進**：健康診断データ，献血データ，気象データ，人流データの電子化・二次利用の促進